



New! エントリーレベル高速応答HC分析計

- エンジン低温始動時の排気計測や過渡運転時の触媒性能評価
- 高速応答を活かした産業向けリーク検査やプロセス管理

- 初心者でも簡単に操作が可能
- 最速 **7ms** の応答性(T_{10-90})
- H2/He (H2/N2, 純H2オプション有り)
- 3m加熱サンプリングライン(標準)
- レンジ: 最高150,000ppm(C1)まで8レンジ
- ポータブル設計(16kg / 46 × 39 × 19 cm)
- 10Hzデータロギング機能
- アナログ出力: 100Hz/10Hz



- HCをトレーサーガスとする風洞実験
- ガス配管のリーク検出
- 低温始動実験 (ガソリン・ディーゼル)
- 過渡運転時の燃料噴射パラメータの調整

新しいエントリーレベルのFID50は、10msの応答性が必要とされる用途に適しています。

エンジン排気向けの主な用途は、触媒前後におけるTHC計測、過渡運転時の触媒性能評価、低温始動時のエンジンキャリブレーション、触媒のライトオフ性能評価、DPFの再生を目的としたエンジン排気のHCコントロールがあります。

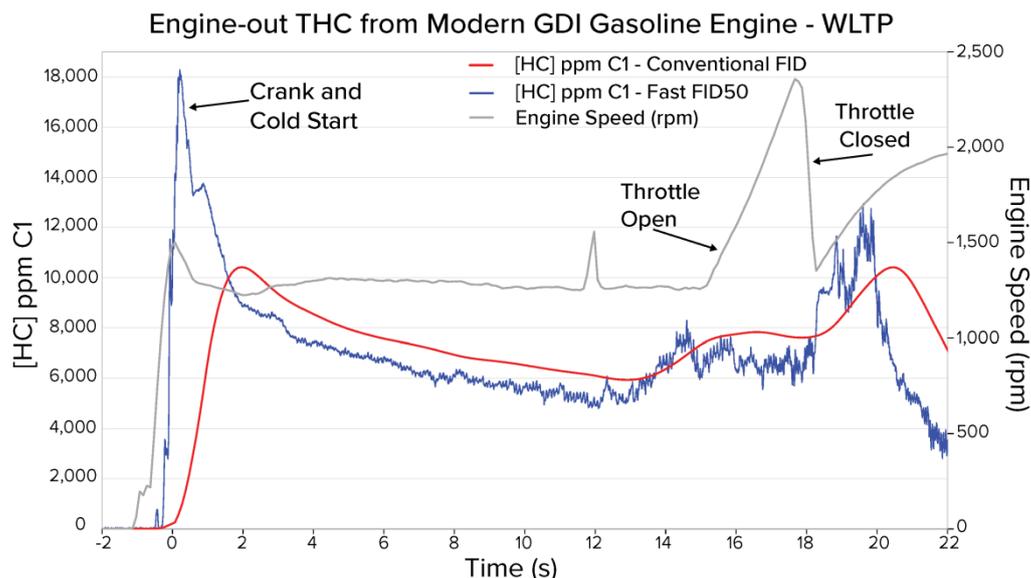
エンジン排気以外の用途として、非加熱サンプリングラインによるHCトレーサーガスを用いた風洞実験、HCガス配管上の瞬時リーク検知や高速応答が有用となる生産工程でのプロセス管理などにご利用いただけます。

FID50は、ハイエンドレベルのHFR500 ($T_{10-90}=0.9ms$)と同様に実績のある水素炎イオン化検出法を採用しつつ、以下の仕様変更でローコストを実現しています。

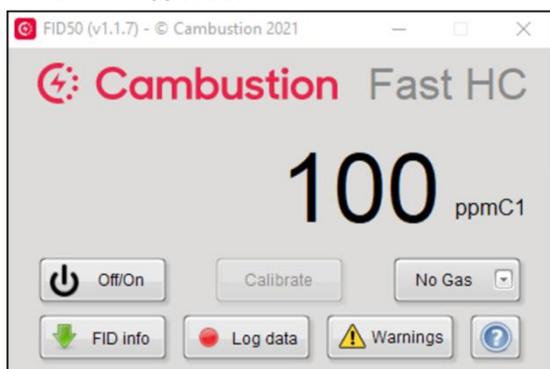
- シングルチャンネル仕様
- 応答性 $T_{10-90}=7ms$
- 検出器を内蔵するコンパクトな本体
- 加熱または非加熱のサンプルライン(標準長3m)

1msの応答性が必要とされる用途や、計測箇所の圧力が大気圧と異なる場合(エンジン筒内やターボ上流)にはHFR500の使用を推奨します。

Comparison of FID50 vs Conventional Analyser - Cold Start Engine Data:



ソフトウェア操作画面



仕様

計測原理	水素炎イオン化検出法
計測成分	THC
チャンネル数	1
応答性 (T10-90%) と サンプル長	7ms (2m非加熱, オプション) 14ms (3m加熱, 標準) 19ms (3m加熱+フィルター, オプション)
出力	500Hz 又は10Hz 10V アナログ出力
サンプル圧力	0.9 – 1.4 bar abs
サンプル流量	3L/min サンプル + 3L/min バイパス
加熱サンプリングライン温度	191°C
レンジ	150,000ppm(C)までの8レンジ
RMS ゼロノイズ	< 1ppm(C3)
キャビネット寸法, 重量	W460 x D390 x H190mm, 16kg
ユーザインタフェース	専用ソフトインストールPC RS485通信
ガスユーティリティ	40% H2/He (H2/N2, 純H2オプション有り), HCスパンガス, N2ガス
校正ガス消費量	7L/min
電源	90-240V 50/60Hz 350W max

仕様は予告なく変更されることがあります

YouTube Cambustion公式チャンネル
<https://www.youtube.com/user/cambustionuk>

FID50紹介

食品容器の汚れ検出

製造:

Cambustion
 cambustion.com
 support@cambustion.com

国内総代理店:

森村商事株式会社
 MORIMURA BROS., INC.
 morimura.co.jp
 cambustion@morimura.co.jp

国内技術サポート:

サステナブル・エンジン・リサーチセンター
 Sustainable Engine Research Center (SERC)
 serc.co.jp
 cambustion@serc.co.jp